

令和4年度 住まい環境整備モデル事業
(人生100年時代を支える住まい環境整備モデル事業)

提案申請書 < 事業育成型 >

実施結果報告書 《技術の検証・情報提供及び普及》

事業名称

困窮暮らしに花が咲く
「3分の1生活」実現のための環境整備事業

一般社団法人umau.

0. 提案の概要

①提案事業の目的

困窮暮らしに花が咲く
3分の1生活実現の為の環境整備事業

わたし達が抱く課題
ひとり親を中心とした困窮した家庭が
頑張りすぎずに「今のままでも幸せになれる」
為の2つの環境整備

①働く場

不必要なものを再生し暮らしに戻していく
「Re暮らし」プロジェクト

就労支援事業
相互扶助就労事業

②暮らす場

愛のある関わりと希望を持てる環境をつくる
「ゼロプレイス」プロジェクト

マザーズハウス
シェルター

困窮暮らし状況

目指す生活



0. 提案の概要

①提案事業の目的

困窮暮らしに花が咲く
3分の1生活実現の為の環境整備事業

貧困

私たちの活動のテーマは「貧困」です。
低所得という貧困には、
金銭だけではないたくさんの要素が絡み合い
簡単には抜け出せない原因が存在しています。
久留米市のこどもの貧困は平均を上回っており
当事者であるわたし達だからこそ
脱出方法を発見し貧困の根本原因を導き出し
新しい生活のスタイルを築き上げます。

お金

「子どもに飲ませる明日の粉ミルクがない」
「お財布に21円しか入ってない。どうしよう。」
「中卒だし車の免許も持ってなくて働く場がない」
「小さな子を抱える母子家庭で面接43件落ちた」

時間

「友達に長電話してストレス発散。子どもは放置」
「段取が出来ず、やるべき事が終わらない」
「仕事頑張って帰ったら家事に追われ疲れた・・・」
「毎日同じ事の繰り返し。自分の時間が全くない」

子育て

「子どもの将来のために怒鳴るようにしつけている」
「子どもに野球を習わせたいけど送り迎えができない」
「子どもが不登校になったけど仕事が優先」
「愛情を受けて育ててきてないから育て方がわからない」

心

「自分は生きている価値もない。死にたい。」
「男性依存。異性と安定していないと他に集中できない」
「子どもの事が心配でたまらない、過保護と言われた」
「人の愚痴、攻める、妬む、その繰り返しで生きてきた」

2019年度厚労省調査

全国のこどもの貧困 **7人**に1人

2018年の貧困線は127万円となっており、それを下回る所得世帯が
相対的貧困と言われる。17歳未満の子どもの貧困率は13.5%で
およそ7人に1人が該当している2000年頃でも14%程度を占めており
約20年経ってもほとんど改善されていない状況にある

2021年度久留米市調査

福岡県久留米市こどもの貧困 **5人**に1人

下の表の3つの要素のうち、1つ以上に該当する生活困難世帯の
割合は22.1%となっており、5人に1人以上の子どもが
何らかの貧困に関する課題に直面している状況。特に、
母子家庭における生活困難世帯は、56.3%と割合が高くなっている。

①低所得 ※国の貧困線（122万円）を下回る世帯	14.2%
②家計のひっ迫 ※経済的な理由で「食費を切りつめた」「新しい衣服や靴を買うのを減らした」などの経験が3項目以上該当する世帯	7.7%
③子どもの体験や所有物の欠如 ※経済的な理由で子どもを「旅行やレジャーに連れていくことができなかった」「学習塾や習い事に通わせることができなかった」などの経験が3項目以上該当する世帯	9.5%

【生活困難世帯の割合】

生活困難層	困窮層+周辺層	
困窮層	①②③のうち、2つ以上の要素に該当	7.5%
周辺層	①②③のうち、いずれか1つの要素に該当	14.6%
一般層	いずれの要素にも該当しない	77.9%

【世帯区分ごとの生活困難世帯の割合】

世帯区分	生活困難世帯			一般層
	困窮層	周辺層	計	
全体	7.5%	14.6%	22.1%	77.9%
ふたり親世帯	5.2%	12.2%	17.4%	82.6%
母子世帯	25.4%	30.9%	56.3%	43.8%
父子世帯	9.7%	12.9%	22.6%	77.4%

0. 提案の概要

①提案事業の目的

困窮暮らしに花が咲く
3分の1生活実現の為の環境整備事業

わたし達が目指すのは

3分の1生活

の実現

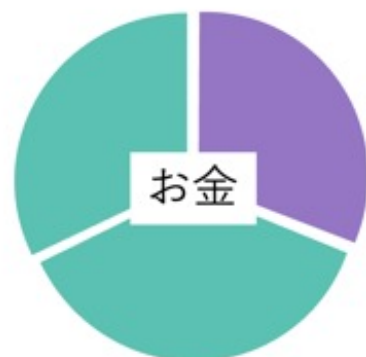
3分の1生活とは・・・

貧困下で生きる家庭の負担と不安を、支え合うことで解消し、余白をつくる生活のこと。

今よりもっと頑張り、向上することで、困窮状態を打破していくのではなく

今の状態でも、仲間と支え合うことで、負担と不安を軽減し、豊かになる方法を見つけていく。

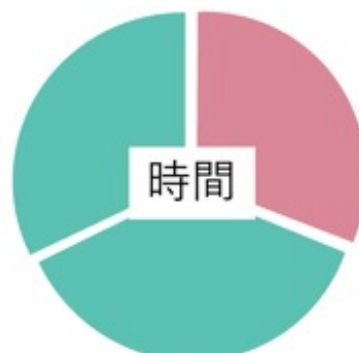
「3分の1」という半分以上を想像する考え方で、暮らし方を改め、新しい価値観を生み出していく。



家計の出費を
3分の1に

各家庭の家計で同じ項目を
シェアし合うことで節約する。

・食費 ・習い事費・洋服代・通信費
・光熱費・交通費 ・消耗品費 etc



毎日のルーティーンを
3分の1に

各家庭で行われている毎日の
家事や仕事を重ね合わせる。

・料理 ・洗濯 ・買い物・お風呂
・片付け・ゴミ捨て・送迎 etc



子育ての親の責任を
3分の1に

親だけが子育てを背負わずに
みんなが愛を持って関わり合う。

・しつけ・愛情 ・教育 ・経験
・安心 ・価値観・食 ・友達 etc



精神的不安を
3分の1に

孤独感や不安感を仲間同士で
共感し理解できることで軽減する。

・弱音を吐ける・共感できる・支えられる
・本音を言える・認められる etc

貧困に紐づく4つの要素を仲間同士で「支え合う」ことで改善し、余白をもたらせていく。

0. 提案の概要

②提案事業の内容

●住宅等の整備

7箇所における物件検討



●技術の検証

働く場(就労支援・相互扶助就労)と、暮らす場(マザーズハウス・シェルター)の環境整備を目指し、就労支援事業所の設立、再生商品(リリボン)の開発とマーケット展開、マザーズハウスの物件を確保し、事業展開も目指すための検証を行った。

●情報提供及び普及

困窮世帯への実態調査や、SNSによる情報発信やヒアリング等の実施、地域コミュニティへの参加や、ネットワーク構築等での情報提供と普及を行った。

1. 技術の検証 (1) 不要になったものを「再生」していくための手法と設備の検証

①検証の目的・問題意識

就労支援や相互扶助就労としての仕事づくりとして
捨てられるものが新たな価値として生まれ変わる
商品開発の知恵を収集し、商品の決定と必要設備を検証する。
自然環境課題に対してのアプローチと共に
「再生して大切に作る心」を困窮世帯の人達が感じながら
作成することができる商品にしていける。

②仮説の設定

当法人に寄付が集まる、洋服・靴・バッグ・ランドセル・
食材等を活用しての再生商品が確定し、それらが誰でもが
できる仕事となり、物の再生と、人のやりがい
マッチングする事業になっている状態。
必要設備などの計画も具体的にできている状態になる。
多様な人たちのニーズを掴み、働く場・働く機会を創出できる
事業が確定している状態。

③検証方法

同様の事業を展開している企業への視察。

- ・ふくる/あざらし/二号店（兵庫県）
- ・斗々屋（京都府）
- ・ぐーてん/青空マーケット（大阪府）

④検証の結果

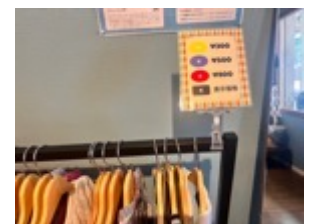
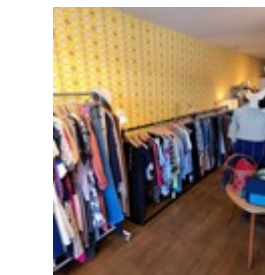
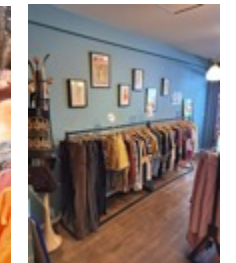
捨てるはずの素材の可能性を知った。
当法人で集まるハギレや古着を活用して、商品はいはつだけでは
ない、作成プロセスに貧困脱出の過程づくりも大切にできる
作成から販売後までのストーリー化された商品に決定。
5歳の子どもから86歳までの認知症のあばあちゃんまでが作成
できた、2本のハギレを編んでいくファブリックロープ「リリボン」
をまずは、年末に販売する「しめ縄」として商品化。
しめ縄職人さんへの学びを受け、農家さんからの藁の提供、
地域の皆さんからのハギレの寄付を集めながら取り掛かっている。



1. 技術の検証 (2) 再生した商品の販売先や流通システムの検証と構築

①検証の目的・問題意識

多様な環境下にいる人たちが働きたくても働けない状態や働いても困窮から脱することができない人達が存在する中、当事業で就労支援や相互扶助就労等を実現化していくために再生した商品を販売していく流通先を先に見つけておくことでやりがいも増し、運営と継続を見込んでいけるため。



②仮説の設定

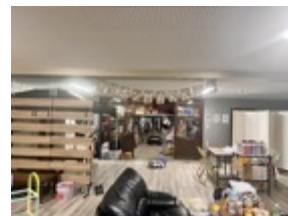
古着や素材の活用が事業展開の可能性をどれほど秘めているのか活用法を検証し、当法人でできる可能性を探ること。
更に、「リリボン」というハギレを活用したフアブリックロープを困窮世帯の当事者達が作成し、地域通貨のようにお金ではなく作成した長さで物などを購入できる仕組みが通用するのか。どのくらいの世代の方々が負担なく作成できるのかを検証した。

③検証方法

トト屋(京都)
二号店(兵庫)
Bag(宮崎)

④検証の結果

様々な捨てるはずの資源を活用している店舗等に視察に行きデザインやブランディング、プロモーションや運営方法等で再生商品の可能性が上がっていくことがわかった。
再生商品開発と障害者雇用・古着や古本での地域活性化・賞味期限の価値づけ・無給での店舗展開・ショッピングモール内でのショップ展開・捨てるはずの素材の活用等、様々な視点や知恵を盛り込み、店舗ごとが強みを持ち展開していた。当法人もハギレや古着を活用した誰もが作成できる「リリボン」によってストーリー展開と商品開発を進めていく。



1. 技術の検証

(3) 支援する側される側に分かれず多様な人たちが混ざり合った働く場の検証

①検証の目的・問題意識

就労支援事業所にヒアリングを行うこと、就労支援で働いている、働く可能性のある人達との対話を行い、どのような働く場があれば今の社会に足りない視点や価値を盛り込んだ働きたくなる場ができるかを検証する。障がいのある方、ひとり親などの困窮家庭に必要な働く場を完成させること。

②仮説の設定

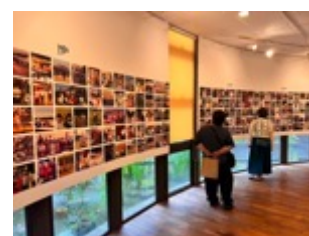
就労継続支援B型事業所を予定し、他の福祉制度も学び事業展開の方向性を決定させていく。事業所側と当事者側のヒアリングを行うことで当法人が目指す社会により近づいていける知恵を習得しコンセプト決定・制度決定・企画の決定を行う。

③検証方法

久留米市(4件)宮崎(2件)鹿児島(2件)大阪(3件)の福祉事業所へのヒアリング
当法人を活用している会員さんとの対話。

④検証の結果

当初、福祉事業に取り組むことに抵抗があり、制度に縛られたり、私たちの良さが消えてしまうような恐れがあったが、様々な活動を見て、意見を聞かせていただき、自分達が目指したい方向に対し「福祉制度を活用する」方法と可能性を知った。福祉から地域に入っていく人達、地域から福祉に入っていく人達の課題の違いや、どちらともゴールは似たようなことを目指してあることも学びとなった。困窮世帯に位置した家庭とも活動の中で自然に対話を行い、リモートでも出来る仕事、時間に縛られない仕事、子どもと出来る仕事、やりがいを持てる仕事など、困窮者にとっては通常の仕事に副業をプラスさせることで収入アップを目指すことを望んでいること、就労支援に対しては5人の決定者をいただいた。しかし、市役所への相談で久留米市の福祉事業に規制がかかることを知り、最終申請期限が9月19日、事業開始は11月1日までで、就労支援事業は立ち上げることができなくなることを知り、申請書は完成したものの、サービス管理責任者が見つからず今のところ断念した。リリボンの作成や、マーケットの展開、地域企業からの作業受託等の計画を立てていたが、就労支援との事業計画が崩れた。福祉事業所からのアドバイスの中に、就労支援事業よりも当法人の活動は自立訓練の方が合っていると教えていただいた。就労支援を開始したいと思っていた2024年4月には、就労支援は立ち上げられなくなったが、自立訓練の方を学び直し、一緒に働けるサービス管理責任者も見つけていく。



1. 技術の検証 (4)マザーズハウス設立のための制度・物件・ニーズ・企画の検証

①検証の目的・問題意識

困窮世帯に起こりやすい虐待やネグレクト、精神障害を持つ親、DV、子どもの引きこもり、不登校など、このような問題は家庭の中で起こ、つており外に見えにくい。それらの家庭内の問題は大きく社会問題への発程する事例も少なくない。そんな時に「少し離れる場所」「違う環境での生活」をすることができれば、家庭内の問題に第三者が関与できたり、問題が解消する場合もある。そんなマザーズハウスといういつでも帰って来れる暮らす場の展開を行う。

②仮説の設定

私たちが理想とする泊まる場には、何かしらの制度が適応するのか。
どう環境を整えると、対応しやすい場になっていくのか。
困窮世帯の現状に対し、どのようなニーズがあるのか。
コンテンツとして、必要なものを探ることにより
困窮世帯を救い、向上・自立できるマザーズハウスを目指す。

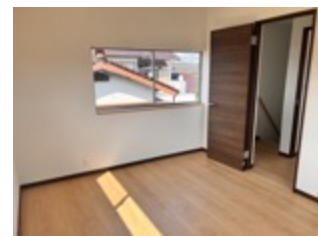
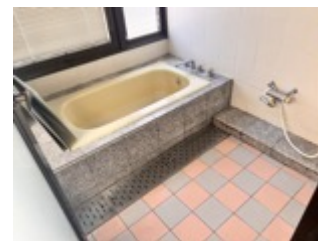
③検証方法

制度の検討(視察・検索・市役所)
物件の見学(5件)

④検証の結果

空き物件は多数存在するものの、良い場所があっても大家さんと繋がらなかったり購入物件だったり、古すぎて建築基準に適してなかったりと難しい点が多かった。今後の事業展開を考えると、今の拠点と近い場所にあり、個室が4つ以上あったり、駐車場を確保できたりと、クリアしたい条件と伴う物件を見つけるのが難しかったが、現在空き団地を調整中である。

検証期間中に、「母子家庭の母の入院により息子の預け先がない」「暴力をふるう高校生の息子と一緒に暮らせない」「学校にご飯を持っていけるお金もなくお母さんも動けずに留年しそうな学生」「親子の共依存により引きこもりになっている親子」など、マザーズハウスがあれば・と思うケースが多々訪れた。プライバシーのある程度の確保と、シェアできる空間のあるマザーズハウス(シェアハウス)を改修していきたい。



検証(5)困窮暮らしをしている当事者への課題や希望などの検証

困窮暮らしに花を咲かせるために、ひとり親家庭・生活保護受給家庭・家族の中に障害のある人がいる家庭・ふたり親で支援を必要としている家庭に調査を行うことにより、困窮の共通点や原因を見つけ出し事業展開に繋げるため。

時間の使い方が困窮状態を引き起こしているのではないか。
との仮説の元、調査を実施。

ひとり親家庭30人/ふたり親家庭20人
アンケートフォームと、紙ベースの3日間の生活時間を記載

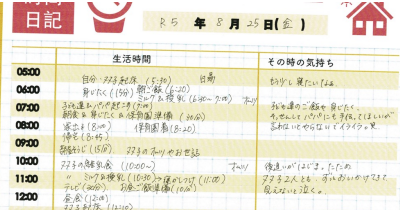
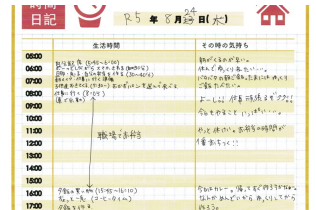
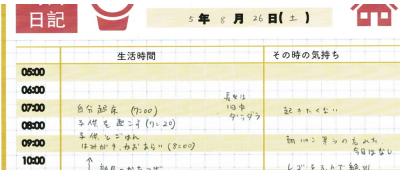
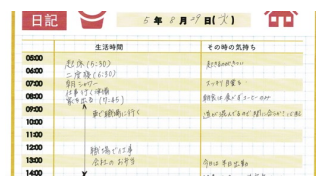
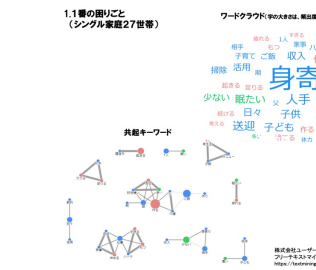
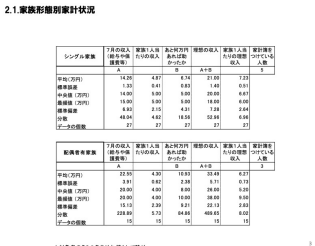
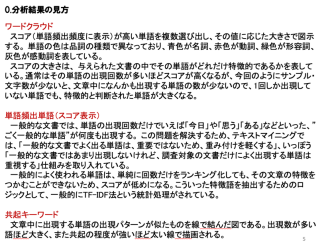
アンケート結果は別データで添付。
今後、この調査を元に、活動に反映させていく。

毎月ひとり親は手取り10-15万円が多く、家計の厳しさが結果として出た。無駄な出費はタバコ、家賃、光熱費など、もっと家計に余白があれば家計簿に記載したい項目は何か？との質問にもタバコ、旅費、美容室代などが多くを占めた。

低収入だからと自身のやりたいことを我慢し続けている感のある結果とは少し異なった結果とも受け入れられた。

時間の無駄遣いも、お金の無駄遣いも、必ずとは言えないが、歪んでおり、贅沢はできないが、欲望を持ち生きていることを知った。

家計簿をつけること。この習慣がなく、生活費を切り詰める
 為に光熱費を削る。食事を作るモチベーションを上げる方法
 が必要だ。タイムマネジメントができる生活習慣を伝えてい
 くことの重要性がわかった。



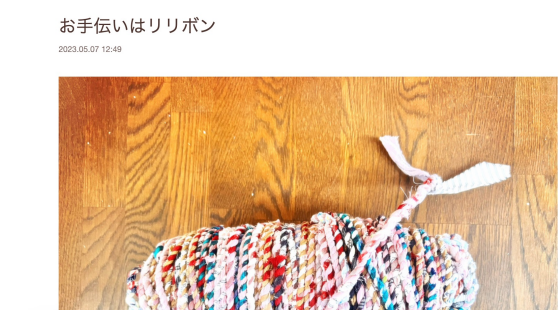
2. 情報提供及び普及

実地項目

- (1) Re暮らしをサイクル化させる仲間の募集
- (2) 素材の提供を求む情報発信
- (3) Re暮らしプロジェクトの情報発信
- (5) ゼロプレイスプロジェクトのコミュニティ構築の情報発信
- (6) 困窮暮らしの調査報告書の情報発信

情報提供及び普及内容、事業効果

- (1)(2)(3)
 - ▶チラシの作成
仲間づくりや、企画の周知、寄付の収集などを人々に伝えていくために様々な形のチラシを作成。
 - ▶SNSでの発信
・HP・blog・Instagram・Facebookを活用し発信。
↓
LINEやメールを使つての友人への周知にも使いやすく
記事や食品も集まり、新規の利用者の獲得、協力者等も増えた。
 - ▶地域コミュニティの参加や主催
約15企画の地域活動に参画(校区・居場所・福祉・アート・環境等)
色んなところでのリリボンの告知や協力してほしいことを直接伝えていけたことが協力者の増加



《おしらせ》
生地を集めています！
おうちに使っていない生地は眠っていませんか？
じじっかが余った生地や生地に出来る着なくなった洋服を集めています！

運営資金を作り出すために、リリボン作りを資金のひとつに加える予定です。
ぜひ、おうちにあるものをじじっかにください！！
9月中旬頃までに預けると嬉しいです！

紐に出る素材
☆COTTON(綿)や麻の自然素材
☆平織の生地
☆紐に出来るような洋服

平織りの紐

こんな紐作りをします！



リリボンマーケットとは
円ではなくメートルで買う小さなスーパー
リリボンマーケットのオープン

リリボンマーケットとは、社会課題解決と、子ども達のお楽しみを両立させることを目指したマーケット。親の働き方・子育ての悩み・「少子化100円」ではなく「リリボン100円」で導入する。リリボンとは、誰でも作れるハギロも活用したリリボン(ロープ)。期間限定なく誰でも作れるハギロも活用したリリボン(ロープ)。期間限定なく誰でも作れるハギロも活用したリリボン(ロープ)。

①教育支援の体面となる
2024年度にマーケットオープンと同時に教育支援の開始。施設、コミュニティを連携して行うための計画に連携している。

②サステナブルなエコノミー(フードロス削減を(消費の活用) 販促する食料は、地域の食品企業や店舗、農業者から。食品ロス削減に貢献する食料の活用を実現している。また、店舗を運営する。小さな販路工場を立ち上げ、加工食材としても提供できる。

③地域経済の活性化
食料の消費を減らすのに、お金の消費ではなく、リリボン消費による消費での消費とする。食料の活用として活用していただく。

④リリボンを地域資源として活用
地域の食料を減らすことで、お金の消費を減らす。リリボン消費による消費での消費とする。食料の活用として活用していただく。

⑤子ども達の消費意識
リリボン消費による消費での消費とする。食料の活用として活用していただく。

対象者
・生活困窮世帯
・ひとり親世帯
・高齢者
・子ども達
・ひとり暮らしの若者
・社会福祉協議会
・福祉事業所の支援者・事業所
・福祉の支援を行う団体
・国や自治体に立ち回っている方々

5月 2023年 から 毎月5mの簡単リリボンを作ろう！
じじっかみんなのお手伝い

ハギレでつくるフアブリックロープ

リリボン 作り

いつも、みんなじじっかに仲って来てくれてありがとう！
「血縁のない大家族」をつくっていくじじっかみんなで仲っていききたい！
毎月1人5mずつ作ってほしい！
みんなで作ったリリボンで商品開発してじじっかみんなの材料費にいきます！

じじっかで作ろう！
週末じじっかでゆったり過ごしながらみんなで作ろう

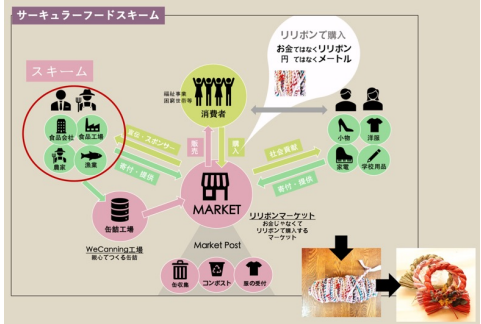
家でじじっかでもできる！
いつでもお家で空いた時間に自由で作ろう

リリボンとは？
プロで説明するから見てね！

作り方動画
3分動画！作り方簡単だよ！

完了チェック表
5m完成したらチェック入れてね！

QRコード



Reribbon Market

地域全体で作成したリリボンを販売できる方法を探しています。

新しい暮らし
福祉デザイン
共生社会
住民ブランド
手触り商品

实地项目

- (1) Re暮らしをサイクル化させる仲間の募集
- (2) 素材の提供を求む情報発信
- (3) Re暮らしプロジェクトの情報発信
- (4) ゼロプレイスプロジェクトのコミュニティ構築の情報発信
- (5) マザーズハウスの物件探しの為の情報発信
- (6) 困窮暮らしの調査報告書の情報発信

(4)(5)(6)

- ▶久留米市における地域福祉の16の団体とのネットワーク構築
支援心の高い活動団体との協力や情報交換できるプロジェクトを作ったことにより、当法人の活動で足りないものや、困った案件等に対応してくれる人たちが増加
- ▶不動産や大家さんたちのネットワークを持つてる人たちへの情報発信を行った。
今回物件見学行かせてもらった全てがそこからの紹介
更に、私たちがやりたいことを理解。共感してくださった。
- ▶貧困調査を行う為に、チラシを作成しコミュニティに投げた。
あつという間に参加者が集まり実施できた。
調査を行えたことにより、よし信頼を持って、家庭環境を話してくれる方が増えた。



子育て生活調査

ご協力をお願いします！

子育ての生活リズムの調査を30名に実施することにより、「国産と約6割の価格差」から見えてく「真価」を発見し出し、今後の活動に繋げていきたいと考えています！
しっかファミリーのみんな！ アンケートのご協力をお願いします！

調査実施期間
お渡しした日から7月31日(日)まで

するとこと

1 30分の生活時間記入

2 39程のアンケート回答

ご協力いただいた方に
アンケート1000分の
お礼の品物を送ります！



アンケート用紙のイメージ。手紙の形をしており、上部には「アンケート」の文字と「FAMILY」のロゴがある。下部には「お名前」「年齢」「性別」などの記入欄がある。



アンケートのイメージ。アンケートの表紙部分で、中央には「子育て生活調査」というタイトルがあり、下部には「アンケート」の文字がある。



アンケートのイメージ。アンケートの表紙部分で、中央には「子育て生活調査」というタイトルがあり、下部には「アンケート」の文字がある。

協力していいよ！という方は・・・

8月23日(水)まで1つのお返事をください！
①8月25日(金)12時12分12秒に希望と期間の希望日と、どのような受け渡し方法の希望を教えてください！
②8月1日(金)12時12分12秒の期日の希望日と、希望日と、どのような受け渡し方法の希望を教えてください！

受け渡し方法
・ じぶんに来る！
・ じぶんへ送付する！



情報提供(3) Re暮らしプロジェクトの情報発信



2023.4.18

就労支援事業勉強会の実施

就労支援事業所を運営されている方に就労支援を始める際の制度やポイント等をヒアリング。

制度を活用しての運営はとても厳しいものであり、今の管理体制では厳しいことを理解した。



2023.

精神疾患の方の居場所への視察

うつ病や統合失調症を経験した方々が集まる居場所への視察。「働く」ということに対して当時どのような気持ちを持たれていたか、どんな配慮があれば働き続けることができたかなどを調査。毎朝違う体調やメンタルに不調を感じた際に伝えやすい環境、仕事中の休憩への理解など、働く場の作り方等を学んだ。



2023.

サーキュラーエコノミー勉強会

サーキュラーエコノミーを知り

自分達に何ができるのかを考える。製作の時点から再利用ができる事を想定して製作できる商品をどのような形でできるのかを検討。



2023.

施設建設のための物件検討

地域のお世話になっている建築士、電気屋さん等に現場に来てもらい、施設建設に対するアドバイスをいただいた。

倉庫での検討だった為、車椅子でも入れるトイレ建設と、電気を通すために同建物との切り分けに課題があったが、様々な知恵をいただいた。



2023.

古着の再利用の為のクリエイターへのヒアリング

古着リメイクのネット販売等を行なっているクリエイターの方へお話を聞きに。

ある程度の技術が必要なことと、機械の導入による就労支援に対応するアイデア等をいただいた。



2023.

就労予定者へのヒアリング

当法人を活用してくれている利用者で就労支援で働いている方々に現在の事業所の状態や、働き方の希望等を聞き、人間関係の難しさが存在する事業所が多いと判明。

情報提供(4) ゼロプレイスプロジェクトのコミュニティ構築の情報発信



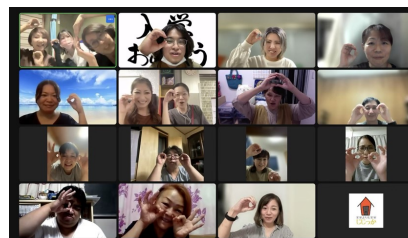
2023.
ゼロプレイス会の実施
豊田・埼玉・熊本で居場所や
ファミリーホームを運営している
方々との交流会を実施。
運営の中での課題や、運営方法
等の意見交換を行った。



2023.
活動紹介
活動拠点のエリアのまちづくり
協議会・婦人会等のトップの方々
が拠点に来てくださり、じじっか
の活動紹介と共に、
マザーズハウス
のビジョンをお伝えした。



2023.
活動紹介
久留米市で活動している
市民団体の皆様への活動紹介。
知っていただく、つながっていただく
ことでのネットワークを広げていく。



2023.
ゼロプレイス会の実施
ファースト、セカンド、サードプレイス
ではなく「ゼロプレイス」という概念を
考え合う時間。地域性には偏らず
遠くても根本の想いと同じであることに
感動が巻き起こった。



2023.
父子家庭の語り場の実施
マザーズハウスとして、「母親」の役割や
大切さを父子家庭のお父さんにヒアリング
父子家庭として子育てをする中での
難しさ、大変さを聞くことで
マザーズハウスに反映させていく。

情報提供(6) 困窮暮らしの調査報告書の情報発信

アンケート内容

- ・生活時間の記録(三日間)
- (左にアンケート内容の一部を記載)

アンケート対象者

- ・母子/父子家庭
- ・多子世帯
- ・生活保護受給者

アンケート人数

- ・50人

生活時間日記 氏名 若松 麻衣 108

2023年 9月 24日(水)

生活時間	その他の活動
0600	起床(6時30分)
0630	朝食(7時)
0700	洗濯(7時30分)
0730	通勤(8時)
0800	仕事(8時30分)
0900	仕事(9時)
1000	仕事(10時)
1100	仕事(11時)
1200	昼食(12時)
1300	仕事(13時)
1400	仕事(14時)
1500	仕事(15時)
1600	仕事(16時)
1700	仕事(17時)
1800	仕事(18時)
1900	仕事(19時)
2000	仕事(20時)
2100	仕事(21時)
2200	仕事(22時)
2300	仕事(23時)
0000	仕事(0時)
0100	仕事(1時)
0200	仕事(2時)
0300	仕事(3時)
0400	仕事(4時)

1日の振り返り(得意・苦手・気づいたことなど)
 1日の振り返り(得意・苦手・気づいたことなど)
 1日の振り返り(得意・苦手・気づいたことなど)

生活時間日記 氏名 若松 麻衣 108

2023年 9月 25日(木)

生活時間	その他の活動
0600	起床(6時30分)
0630	朝食(7時)
0700	洗濯(7時30分)
0730	通勤(8時)
0800	仕事(8時30分)
0900	仕事(9時)
1000	仕事(10時)
1100	仕事(11時)
1200	昼食(12時)
1300	仕事(13時)
1400	仕事(14時)
1500	仕事(15時)
1600	仕事(16時)
1700	仕事(17時)
1800	仕事(18時)
1900	仕事(19時)
2000	仕事(20時)
2100	仕事(21時)
2200	仕事(22時)
2300	仕事(23時)
0000	仕事(0時)
0100	仕事(1時)
0200	仕事(2時)
0300	仕事(3時)
0400	仕事(4時)

1日の振り返り(得意・苦手・気づいたことなど)
 1日の振り返り(得意・苦手・気づいたことなど)
 1日の振り返り(得意・苦手・気づいたことなど)

生活時間日記 氏名 若松 麻衣 108

2023年 9月 26日(金)

生活時間	その他の活動
0600	起床(6時30分)
0630	朝食(7時)
0700	洗濯(7時30分)
0730	通勤(8時)
0800	仕事(8時30分)
0900	仕事(9時)
1000	仕事(10時)
1100	仕事(11時)
1200	昼食(12時)
1300	仕事(13時)
1400	仕事(14時)
1500	仕事(15時)
1600	仕事(16時)
1700	仕事(17時)
1800	仕事(18時)
1900	仕事(19時)
2000	仕事(20時)
2100	仕事(21時)
2200	仕事(22時)
2300	仕事(23時)
0000	仕事(0時)
0100	仕事(1時)
0200	仕事(2時)
0300	仕事(3時)
0400	仕事(4時)

1日の振り返り(得意・苦手・気づいたことなど)
 1日の振り返り(得意・苦手・気づいたことなど)
 1日の振り返り(得意・苦手・気づいたことなど)

生活時間日記 氏名 田中 梅 109

2023年 9月 24日(水)

生活時間	その他の活動
0600	起床(6時30分)
0630	朝食(7時)
0700	洗濯(7時30分)
0730	通勤(8時)
0800	仕事(8時30分)
0900	仕事(9時)
1000	仕事(10時)
1100	仕事(11時)
1200	昼食(12時)
1300	仕事(13時)
1400	仕事(14時)
1500	仕事(15時)
1600	仕事(16時)
1700	仕事(17時)
1800	仕事(18時)
1900	仕事(19時)
2000	仕事(20時)
2100	仕事(21時)
2200	仕事(22時)
2300	仕事(23時)
0000	仕事(0時)
0100	仕事(1時)
0200	仕事(2時)
0300	仕事(3時)
0400	仕事(4時)

1日の振り返り(得意・苦手・気づいたことなど)
 1日の振り返り(得意・苦手・気づいたことなど)
 1日の振り返り(得意・苦手・気づいたことなど)

生活時間日記 氏名 田中 梅 109

2023年 9月 25日(木)

生活時間	その他の活動
0600	起床(6時30分)
0630	朝食(7時)
0700	洗濯(7時30分)
0730	通勤(8時)
0800	仕事(8時30分)
0900	仕事(9時)
1000	仕事(10時)
1100	仕事(11時)
1200	昼食(12時)
1300	仕事(13時)
1400	仕事(14時)
1500	仕事(15時)
1600	仕事(16時)
1700	仕事(17時)
1800	仕事(18時)
1900	仕事(19時)
2000	仕事(20時)
2100	仕事(21時)
2200	仕事(22時)
2300	仕事(23時)
0000	仕事(0時)
0100	仕事(1時)
0200	仕事(2時)
0300	仕事(3時)
0400	仕事(4時)

1日の振り返り(得意・苦手・気づいたことなど)
 1日の振り返り(得意・苦手・気づいたことなど)
 1日の振り返り(得意・苦手・気づいたことなど)

生活時間日記 氏名 田中 梅 109

2023年 9月 26日(金)

生活時間	その他の活動
0600	起床(6時30分)
0630	朝食(7時)
0700	洗濯(7時30分)
0730	通勤(8時)
0800	仕事(8時30分)
0900	仕事(9時)
1000	仕事(10時)
1100	仕事(11時)
1200	昼食(12時)
1300	仕事(13時)
1400	仕事(14時)
1500	仕事(15時)
1600	仕事(16時)
1700	仕事(17時)
1800	仕事(18時)
1900	仕事(19時)
2000	仕事(20時)
2100	仕事(21時)
2200	仕事(22時)
2300	仕事(23時)
0000	仕事(0時)
0100	仕事(1時)
0200	仕事(2時)
0300	仕事(3時)
0400	仕事(4時)

1日の振り返り(得意・苦手・気づいたことなど)
 1日の振り返り(得意・苦手・気づいたことなど)
 1日の振り返り(得意・苦手・気づいたことなど)

3. 総括

技術の検証 情報提供及び普及

今回、視察を含めた検証期間を持たせていただき、見たことなかった世界を知ることができたり、自分たちがやってきたことが自信となったり、事業展開の知恵をたくさんいただくことができた。
今後、この検証で学んだこと、事業拡大を目指し計画したことをこれから自分達の力にし、前進して行きます。

全国には、志高く、社会的事業を本格的に支援問いして展開されているところと支援にはせず福祉を出さず、人々の暮らしに自然に馴染んでいくような活動がされているところなど、多様な環境整備に努めている方々がたくさんいた。

当法人と同様に、こだわりを持った事業展開に対し運営費の問題を抱えていたり、自主事業の展開に難しさを感じていたり、剣を跨いで同じ想いを抱いていた。

半年の検証期間をいただけたことにより
周囲からは事業として成り立たないと言われる
リリボンという事業と、制度は使わない独自の考え方である
相互扶助就労という働き方を自分達の手で本格的に
動かしていこうという気持ちが固まった。

更に、マザーズハウスの展開も困窮状態を打破するための
ステップハウスとしての機能を持つ場所が必要という
確信にも至ることができた。

血縁のない大家族をつくり合える仕組みと環境をつくり
現社会に足りない、人々の命と暮らしを守る仕組みを
構築して行きたい。

検証期間があったことにより、当事者の視点やニーズを
知り、自分達の事業の在り方や方向性も計画することが
できました。ありがとうございました！

